

話題98 ティータイム(19) 「寿命」を意識する

「後の者が先になり、先の者が後になる」。聖書に記された意味とは異なるが、人の「寿命」に対する評価は人間の知恵では推し量ることはむつかしい。

天国への道のりは個々に異なる。思いがけず、目の前に扉が開かれることがある。

老健施設における最近のできごとである。山本さんは93歳のお爺さん。急速な歩行困難のために入所となった。総合病院での検査結果、原発巣は明かではないが悪性腫瘍の腰椎への転移の診断がなされていた。高齢で、全身状態より根本的な治療は不可能とのことと全身と原発巣の検索がなされない状態での紹介入所であった。

89歳の奥さんは、約7年前に脳出血で倒れ、長期に老健での入所生活を送っていた。常時、臥床状態、経管栄養でコミュニケーションが完全なまでに断たれている。夫婦の間に子供さんはいない。

経済的には特に問題はなく、山本さんが元気な頃は何事もなく平穏な毎日をおくっていた。奥さんの面倒をみることに何らの問題はなかった。意志の疎通も全くない病態ではあったが、奥さんの経管栄養を決断したのも山本さん自らの判断であった。

困ったことに、お爺さんの病状が急速に進行していった。問題は、この経過から、奥さんが先に亡くなるものと、誰もが考えていた。お爺さんの思いも全く同様であった。見届けるつもりでいた。

急遽、後見人を探し求めた。お爺さん方の親族とはなんとか連絡がとれた。しかし、奥さん方とは日頃、疎遠であり音信不通の状態にあった。

お爺さんは、まもなく死の転帰を辿った。奥さんの全身状態に大きな変化はなく、全くコミュニケーションが断たれた状態で、この後、何年生き続けるか全く予測できない。

「寿命」。予測できないことではあるが、確実に存在する。意識して、ティータイムの話題としてとりあげたい。